

肝炎検査を受け 早期発見と治療を



順天堂大学医学部附属静岡病院
消化器内科先任准教授の玄田拓哉医師

きょう28日は日本(世界)肝炎デー。自覚症状がほとんどないため、感染に気付かず肝硬変や肝がんなどに進行してしまう恐れのある肝炎の大半は日本人で最も多いウイルス性の感染症です。しかし、新薬の登場で感染を早期に発見できれば早期治療により高い効果が期待できるようになりました。県内2カ所の肝疾患診療連携拠点病院のうち、順天堂大学医学部附属静岡病院(伊豆の国市)の玄田拓哉・消化器内科先任准教授に肝炎治療の現状について聞きました。

必ず一度は検査しよう

肝炎はウイルスやアルコールなど何らかの原因で肝臓に炎症が起こる病気です。国内の患者の約8割がウイルス性肝炎と考えられ、大半がB型とC型肝炎です。いずれも主に血液や体液から感染します。感染しても自覚症状がほとんどなく、症状に気付いて医療機関に駆け込んだ時には既に肝硬変や肝がんに行進していることが少なくありません。一般的な健康診断でウイルス検査は行われないので、検査を受けたことがない人は、必ず一度は検査を受けるようにしてください。

肝炎ウイルス検査は県内の保健所や委託医療機関で無料で受けることができます。検査の結果、陽性判定が出ても自覚症状がないため病気にかかっていると深刻に受け止めず、治療を受けない人が多いことも

問題です。特に働き盛りの40~50代にその傾向が強く、陽性判定は「放置すれば肝がんになる可能性もある」という警告と認識して、陽性の場合は必ず医療機関で肝臓の精密検査や治療を受けてください。

飲み薬の服用で治療

C型肝炎の治療は大きく進歩しており、新しい飲み薬が登場したことでウイルス駆除の確率は95~98%に達しています。短期の内服で治療でき、副作用もあまりないので患者さんの生活の質に配慮した治療が可能になっています。B型肝炎も投薬で症状改善につながるようになりました。行政も肝炎対策に乗り出し、精密検査や治療の費用については国や県の助成制度もあります。ウイルス性肝炎は早期発見・早期治療ができれば、肝がんを予防できる時代になりました。「自覚症状がないから別にいい」と

放置するのではなく、「自覚症状がない今のうちに治療して治しておこう」と考え、肝硬変や肝がんなどにならないよう自分を守ることが大切です。検査や治療について不安な点がありましたら、県内2カ所の相談窓口にお気軽にご連絡ください。

「知って、肝炎プロジェクト」について

知って、肝炎

2011年5月16日に策定された肝炎対策基本指針を受け、厚生労働省の肝炎対策助成金事業として開始されました。肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性を分かりやすく伝え、あらゆる国民が肝炎への正しい知識を持ち、早期発見・早期治療に向けて自ら積極的に行動していくことを目的とした「肝炎総合対策推進国民運動事業」として啓発活動をしています。また、厚生労働省 肝炎総合対策推進国民運動 特別参予 杉良太郎氏をはじめとする大使・スペシャルサポーターの方々が肝炎ウイルス検査の認知向上などを目的とした広報活動をお手伝いされています。

きょう 静岡まちなか街頭キャンペーンを開催します

7月28日 金 12:00~13:00

場所 JR静岡駅 新幹線在来線改札口付近

※配布物がなくなり次第、終了します。

日本肝炎デーとは

世界レベルでウイルス性肝炎のまん延を防止し、ウイルスの感染患者に対する差別・偏見を解消するとともに、感染予防の推進を目的として世界保健機関(WHO)が2010年に世界肝炎デーを制定した。日本では翌11年、肝炎対策基本法に基づく5月の肝臓週間を7月に変更し、12年から世界肝炎デーと同じ7月28日を日本肝炎デーと定めた。全国各地で地域住民らを対象に研修会、講演会、街頭キャンペーン、情報交換会、無料個別相談会などを開催し、肝疾患についての正しい知識の普及や予防の重要性を呼び掛ける啓発活動が展開されている。

●肝疾患の相談は、県肝疾患診療連携拠点病院(順天堂大学医学部附属静岡病院の「肝疾患相談支援センター」または浜松医科大学医学部附属病院の「肝疾患連携相談室」)へ。

順天堂大学医学部附属静岡病院
「肝疾患相談支援センター」
伊豆の国市長岡1129
<電055(948)5168>
(受付時間10~16時、土日祝を除く)

浜松医科大学医学部附属病院
「肝疾患連携相談室」
浜松市東区半田山1-20-1
<電053(435)2476>
(受付時間9~16時、土日祝を除く)